

激化する沖縄差別を許さず 辺野古新基地建設を阻止しよう

東京地区反戦連絡会議

全日本学生自治会総連合(伍代委員長)

東京都杉並区下高井戸 1-34-9 03-3329-0165/0168 <http://zengakuren.info>

4月25日、政府は沖縄新基地建設へ向けK9護岸工事開始を強行しました。そもそも海底まで深さの足りない、単に形式的な「汚濁防止膜」を設置した海中に碎石を投下しています。

しかし、もっと多くの人々がキャンプシュワブゲート前に駆けつけ、資材搬入のトラックを座り込みで阻止すれば、新基地建設は止めることができます。

「戦争のための基地はどこにもいらない」という沖縄の人々と連帯し、沖縄・辺野古新基地建設を阻止しよう！

6・23慰霊の日

沖縄を再び戦場の島にするな

政府は、朝鮮民主主義人民共和国(北朝鮮)の危機を煽り、嘉手納、普天間基地をはじめとして、沖縄全島の夜間訓練(出撃態勢)の強化・常態化、パラシュート降下訓練、吊り下げ訓練を住民の声を無視し増加させています。その結果、落下事故、流弾事故などが多発し、住民の安全が脅かされています。

また防衛省は、従来の「北方重視」(対ソ連)から「南西シフト」(対中国)戦略への転換を機に、自衛隊強化を押しすすめ、与那国に陸自基地を新設しています。さらに、住民の反対を無視し、宮古島に700~800人規模の陸自を配備し、石垣島に新基地を建設しようとしています。

4人に一人の命が奪われた沖縄戦で、日本軍は住民をまもるどころか「集団自決」を強制したり(「集団自決」は集団強制死であり、皇民化教育がもたらした惨劇です)、ガマ(避難壕)から追い出したりしました。

沖縄戦を経験した沖縄人民は「軍隊は住民を守らない」ことを知っています。「抑止力」という名で戦争のために配備される自衛隊に反対しよう。

一部の支配者階級の為の、あらゆる戦争へとつながるものを拒否し、国際連帯で戦争をとめよう！労働者に祖国はない。我々が他国労働者と殺し合う理由は何ひとつありません。

6・23慰霊の日に、激化する沖縄差別を許さず、沖縄人民と共に闘おう！

6・23慰霊の日とは

第二次世界大戦下、沖縄は「本土」防衛の捨て石とされ、二〇万以上の住民が犠牲となる地上戦が強制されました。45年4月1日から本格的に開始された戦闘は、6月23日皇軍最高司令官・牛島満の自決により組織的戦闘としては終結しました。しかし、その後もゲリラ化した皇軍兵士による住民への略奪や虐殺は続いています。沖縄では6月23日を慰霊の日とし、戦争の惨禍を記憶に刻み、二度と戦争を繰り返さない決意を込め、様々な闘いが取り組まれています。